

# 令和4年度 小金井市地域課題分析・評価シート（にし エリア）

## I. 地域課題と考えられる課題

- ①（小）（二）歩いていける居場所の選択肢が少ない。
- ②（他）（総）コロナ禍での孤立化。
- ③（他）WEB媒体での情報が届きにくい。
- ④（他）スマホを活用できていない。

### 根拠情報

- 二：ニーズ調査
- 小：小地域ケア会議
- 個：個別地域ケア会議
- 総：総合相談
- 他：その他（懇談会・2層協議体）

## II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- ①新型コロナウイルス感染防止の為、人との接触を減らしている。
- ②外出の機会が減少。対面以外でコミュニケーションを取る方法を知らない。
- ③地域資源の情報を知らない。
- ④電話とメール以外の使い方を知らない。

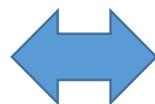


## 地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

- ①応援マップ作成時に、応援ブック未掲載の地域活動団体の情報収集・把握を行った。必要に応じて利用者へ情報提供を行った。
- ②ウイズコロナでの生活に慣れつつあり、地域活動団体の活動が再開されてきている。積極的に活動参加する高齢者と、依然外出を控えている者との二極化が見られる。
- ③新しいことを積極的に取り入れていくことができる高齢者とそうでない者に分かれ、情報収集の仕方に差が生じている。
- ④スマホ機種が多様性もあり、個別に対応可能な相談場所・人の資源が、歩いて行かれる場所がない。
- ⑤「高齢者になるとおこりうること」について、東京ホームタウンプロジェクトのワークショップにて地域住民と検討。金銭管理や日常的な困りごと、一人暮らし高齢者の困りごと等の課題について住民から意見伺った。

## III. 考えられる背景（環境要因）

- ①新型コロナウイルスの流行によりサロン・居場所等の活動休止・縮小
- ②居場所等地域資源の情報が少ない。
- ③支援をすることが可能な人的資源がない。
- ④地域との交流が少なく情報を得にくい。
- ⑤情報を得るツールがわからない。



※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

## 令和4年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（にし エリア）

### 活動目標

- ① コロナ禍で人とのつながりを絶やさないようにする。
- ② 地域情報の提供。
- ③ 多様な社会参加の場（居場所等）となり得る資源を探す。
- ④ 支援の仕組みを構築できる資源（担い手、団体など）を探す。

### 活動目標の達成状況（結果評価）

- ① ウイズコロナ禍での活動場所の運営支援を行った。
- ② 応援ブック、応援マップの配布。包括支援センターだよりの発行。
- ③ 応援ブックに掲載されていない、サロンやスポーツ団体の情報把握をした。地域福祉コーディネーターと本町住宅サロンの立ち上げ支援を行った。
- ④ 「ゆうゆうサロン・こがねい」の活動・運営支援を行った。スマホ入門講座を見学し、講座内容や参加者がどの程度使いこなしているのか等、把握を行った。
- ⑤ 「高齢者になるとおこりうること」の啓発活動として、「お隣りさんカフェ」参加者に向けて、生活支援コーディネーターによる朗読劇を行った。啓発方法としては有効的だと実感した。

手段	R3	R4	R5	結果
①②にし包括支援センターだよりを年3回発行し書面等で情報提供する。		→		にし包括支援センターだより（夏号、秋号、冬号）を3回発行。未利用者向けに郵送した。
①②応援ブック・マップを地域高齢者の目にふれる集まる場所に置いてもらう。		→		応援ブック、応援マップを、圏域内の活動団体、居宅介護支援事業所、カフェ等に配布、設置を依頼した。
①③④地域福祉コーディネーター、ファシリテーターと協働し地域とつながる。		→		地区担当の地域福祉コーディネーターにも、新規サロン立ち上げのため二層協議体に出席依頼し、住民からの要望聞き取り、意見交換に参加してもらった。
①③④現在活動している団体等を把握する。		→		圏域内の活動団体を訪問し、代表者と面識を取り、参加者の活動の様子や雰囲気把握できるようにした。
②ネット環境等の活用		→		今年度は活用に至らなかった。
①③④スマホミニ講座・相談会		→		「ゆうゆうサロン・こがねい」のスマホ教室が、毎月1回の定期開催ができるようになった。参加者も定着してきている。

※ **活動目標とは：**ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ **手段とは：**この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

# 令和5年度 小金井市地域課題分析・評価シート（にし エリア）

## I. 地域課題と考えられる課題

- ① (他) ウイズコロナでの活動場所や人数の制限がある。
- ② (他) (総) コロナ禍での孤立化。
- ③ (他) スマホを活用できていない。
- ④ (二) 体操以外の活動の場を増やす。
- ⑤ (二) 男性が気軽に参加できる社会資源が少ない。

### 根拠情報

- 二：ニーズ調査
- 小：小地域ケア会議
- 個：個別地域ケア会議
- 総：総合相談
- 他：その他（懇談会・2層協議体）

## II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- ① 新型コロナウイルス感染防止の為、外出を控えている。
- ② 対面以外でコミュニケーションを取ることに抵抗を感じている。
- ③ 地域資源の情報を知らない。
- ④ 電話とメール以外の使い方を知らない。
- ⑤ スマホの使い方を気軽に質問したいのに、質問できない。

## 地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

## III. 考えられる背景（環境要因）

- ① 新型コロナウイルスの流行によりサロン・居場所等の活動縮小
- ② 居場所等地域資源で、多様な活動の社会資源が少ない。
- ③ 支援をすることが可能な人的資源がない。
- ④ 地域との交流が少なく情報を得にくい。
- ⑤ 情報を得るツールがわからない。

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

## 令和5年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（にし エリア）

### 活動目標

- ①ウイズコロナの時代でも人とのつながりを絶やさないようにする。
- ②地域情報の提供。
- ③多様な社会参加の場（居場所等）となり得る資源を探す。
- ④支援の仕組みを構築できる資源（担い手、団体など）を探す。
- ⑤「高齢者になるとおこりうること」の啓発活動を行う。

### 活動目標の達成状況（結果評価）

手段	R4	R5	R6	結果
①②⑤にし包括支援センターだよりを年4回、LINEで情報提供する。		→		
①②応援ブック・マップを地域高齢者の目にふれる集まる場所に置いてもらう。		→		
①③④⑤地域福祉コーディネーター、ファシリテーターと協働し地域とつながる。		→		
①③④現在活動している団体等を把握する。		→		
②ネット環境等の活用		→		
①③④スマホミニ講座・相談会(LINE活用講座含む)		→		
⑤圏域内の通いの場で啓発活動を行う。		→		

※ **活動目標とは：**ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ **手段とは：**この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。